

公認スポーツ指導者制度の改定について

2019年4月15日

公認スポーツ指導者育成事務担当者会議



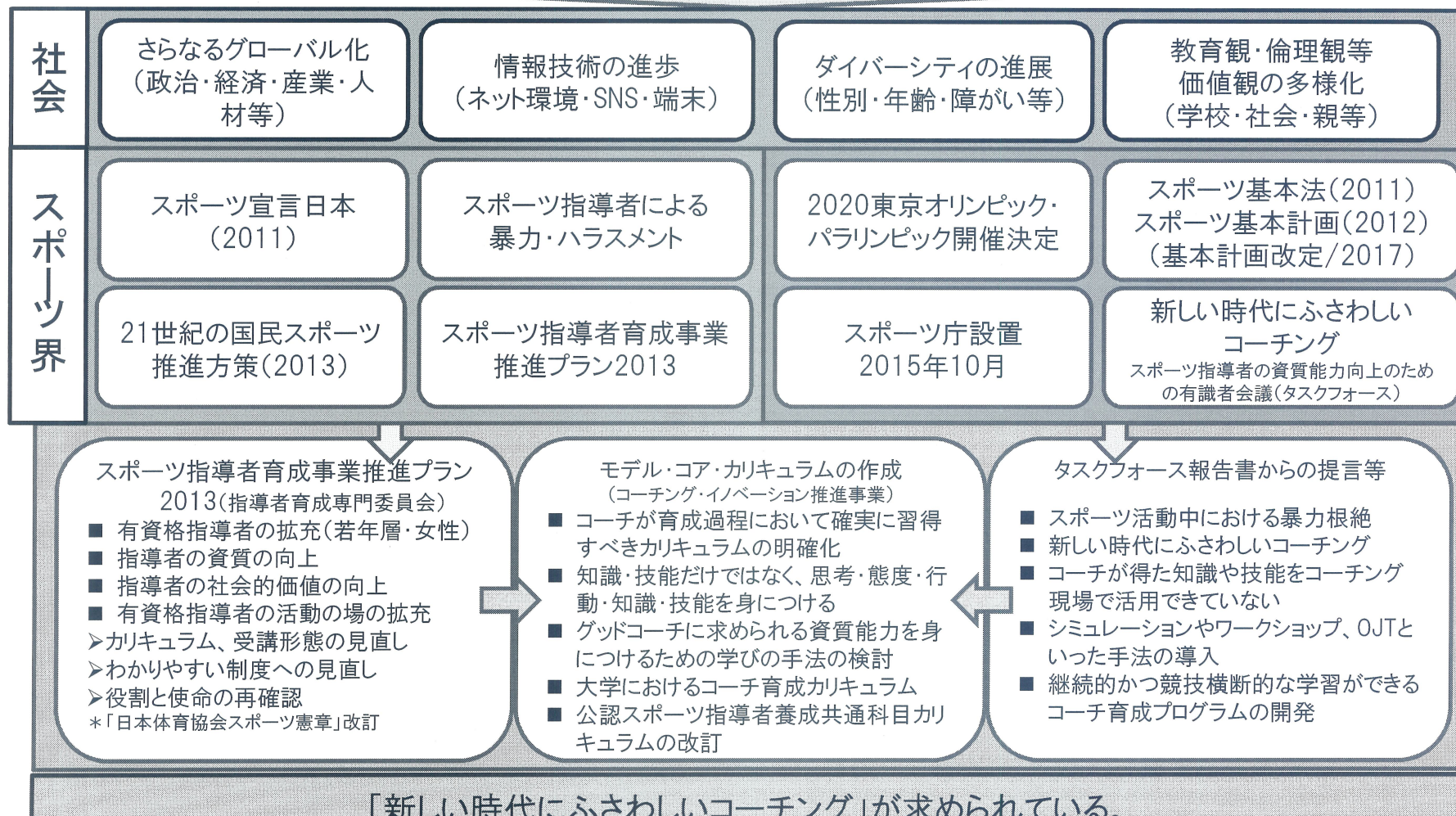
日本スポーツ協会の指導者養成を取り巻く状況



公益財団法人

日本スポーツ協会

2005年の制度改定から10余年が経過。社会もスポーツ界も大きく変化している



*「新しい時代にふさわしいコーチング」

「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるもの

「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)報告書」

グッドコーチ像

人物像	キーワード
スポーツを愛し、その意義と価値を自覚し、尊重し、表現できる人	人が好き、スポーツが好き、スポーツの意義と価値の理解
グッドプレイヤーを育成することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることができる人	プレイヤーやスポーツの未来に責任を持つ
プレイヤーの自立やパフォーマンスの向上を支援するために、常に自身を振り返りながら学び続けることができる人	課題発見・課題解決、自立支援、プレイヤーのニーズ充足、卓越した専門知識(スポーツ教養含)、内省、継続した自己研鑽
いかなる状況においても、前向きかつ直向きに取り組みながら、プレイヤーと共に成長することができる人	逆境・困難に打ち克つ力、ポジティブシンキング、真摯さ、継続性、同情・共感、対象に合わせたコーチング
プレイヤーの生涯を通じた人間的成長を長期的視点で支援することができる人	プレイヤーズセンタード、プレイヤーのキャリア形成・人間的成長、中長期的視点
いかなる暴力やハラスメントも行使・容認せず、プレイヤーの権利や尊厳、人格を尊重し、公平に接することができる人	暴力・ハラスメント根絶、相互尊敬(リスペクト)、公平・公正さ
プレイヤーが、社会の一員であることを自覚し、模範となる態度・行動をとれるよう導くことができる人	社会の中の自己認識、社会規範・モラルの理解・遵守、暴力・ハラスメント根絶意識のプレイヤーへの伝達
プレイヤーやプレイヤーを支援する関係者(アントラージュ)が、お互いに感謝・信頼し合い、かつ協力・協働・協調できる環境をつくることができる人	社会との関係・環境構築、チームプレー、感謝・信頼、協力・協働・協調

【プレーヤーズセンタードとは】

プレーヤーを取り巻くアントラージュ自身も、それぞれのWell-being（良好・幸福な状態）を目指しながら、プレーヤーをサポートしていくという考え方。

【重点】

- プレーヤーが自発的な運動の楽しみを感じられるスポーツ指導とはどのような指導かを考えること。
- プレーヤーを中心に物事を考えつつも、それを取り巻くアントラージュ（コーチや保護者、トレーナーやドクターなどの医科学スタッフ等）も自身のWell-being（良好・幸福な状態）を意識すること。
- プレーヤーが、スポーツをすること、みること、ささえることなどを通じて、自身の生活（人生）をより彩りあるものにデザインすること（スポーツ・ライフデザイン）を支援すること。

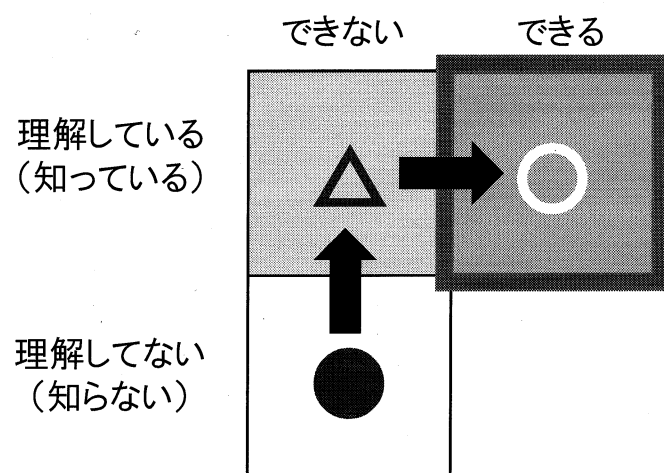
グッドコーチ育成のために取り組むべきこと



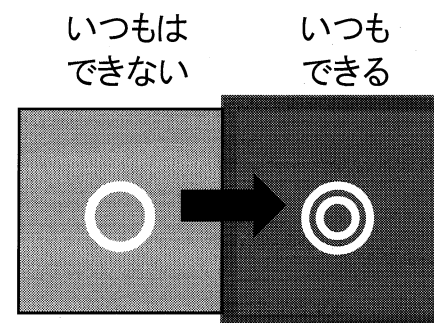
公益財団法人
日本スポーツ協会

- 理解した知識を現場で使える「実践力」にする
- 身につけた「実践力」を高めるための「学び続ける環境」を整備する
- 「情報交換できる環境」を整備する

➤ 講習会を通じて「実践力」を身につける
（「わかる」から「できる」へ）



➤ 研修会を通じて「実践力」をさらに高める
（「できる」から「いつでもできる」へ）



➤ コーチデベロッパー(コーチ育成者)を養成する（「いつでもできる」から「貢献する」へ）

➤ コーチ間の交流の場(コミュニティ)を創出する

グッドコーチに求められる資質能力

（思考・判断、態度・行動、知識・技能）

人間力（思考・判断）：自分自身のコーチングを形づくる中心にあるもの

人間力（態度・行動）：プレーヤーや社会との良好な関係を築くために必要な資質能力

知識・技能（スポーツ知識・技能）：スポーツ指導を行ううえで必要となるスポーツ科学の知識・技能

人間力	思考・判断		スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学（人が好き、スポーツが好き、スポーツの意義と価値の理解、プレーヤーやスポーツの未来に責任を持つ、社会規範、スポーツの高潔性）
	態度・行動	対自分力	学び続ける姿勢（自己研鑽）、前向きな思考・行動、くじけない心、課題発見力、課題解決力、自己統制、内省、社会規範
		対他者力（人、社会）	基本的人権の尊重、相互理解、プレーヤーズ・ファースト、暴力・ハラスメントの根絶、コミュニケーションスキル、マネジメントスキル、目標設定、協力・協調・協働、長期的視点、関係構築力
知識・技能	スポーツ知識・技能	共通	あらゆるコーチング現場に共通するスポーツ科学
		専門	個々のコーチング現場別（競技別、年代別、レベル別、障がいの有無など）に求められる専門知識・技能

【人間力】 内閣府「人間力戦略研究会（平成15年）」の定義

社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

- ・ 知的能力的要素：論理的思考力、創造力
- ・ 社会・対人関係力的要素：コミュニケーションスキル、リーダーシップ、規範意識
- ・ 自己制御的要素：意欲、忍耐力、自分らしい生き方や成功を追及する力

モデル・コア・カリキュラム



公益財団法人

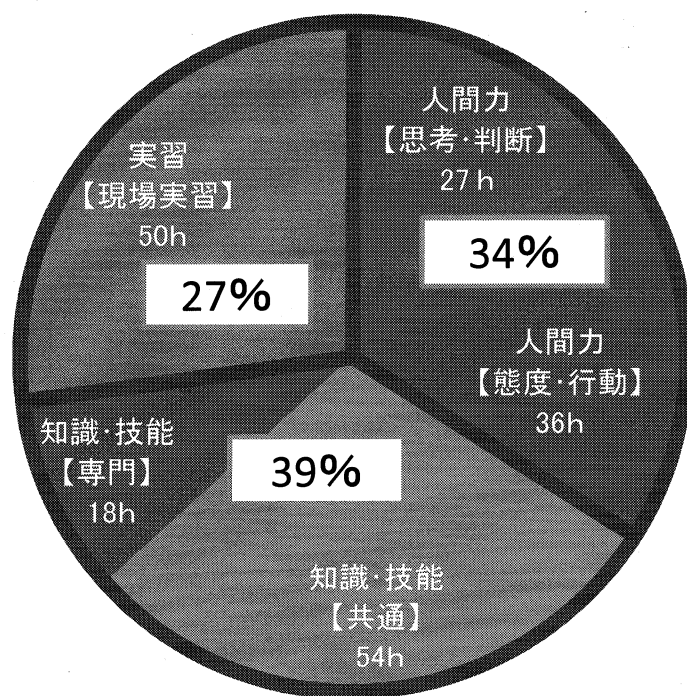
日本スポーツ協会

資質能力区分		領域	主な内容	必要最低時間数		
				基礎	応用実践	計
人間力	思考・判断	コーチングの理念・哲学	プレーヤーとともに学び続けるコーチ	9h	18h	27h
			コーチング及びコーチとは			
			コーチに求められる資質能力			
			スポーツの意義と価値			
			コーチの倫理観・規範意識			
			コーチの役割と使命(職務)			
			計	9h	18h	27h
	態度・行動	対自分力	多様な思考法	6h	12h	18h
			コーチのセルフ・コントロール			
			コーチのキャリア・デザイン			
対他者力		コミュニケーション	6h	12h	18h	
		人的環境(関係者との信頼関係)の構築				
		プレーヤーのキャリア・デザイン				
		計	12h	24h	36h	
知識技能	共通	トレーニング科学	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	9h	18h	27h
			体力トレーニング			
			技術トレーニング			
			メンタルトレーニング			
		スポーツ医・科学	スポーツと健康	9h	18h	27h
			外傷と障害の予防			
			救急処置			
			アンチ・ドーピング			
	専門	現場における理解と対応	スポーツと栄養	6h	12h	18h
			スポーツの心理			
			ライフステージに応じたコーチング			
			プレーヤーの特性に応じたコーチング			
			コーチングにおけるリスクマネジメント			
			クラブ・チームの運営と事業			
		コーチング現場の特徴				
		計	24h	48h	72h	
合計				45h	90h	135h
実習	現場実習	コーチングの実践と評価	5日	20日	50h	
			10h	40h		

モデル・コア・カリキュラムと日本スポーツ協会 共通科目Ⅰ～Ⅲカリキュラム(現行)の比較

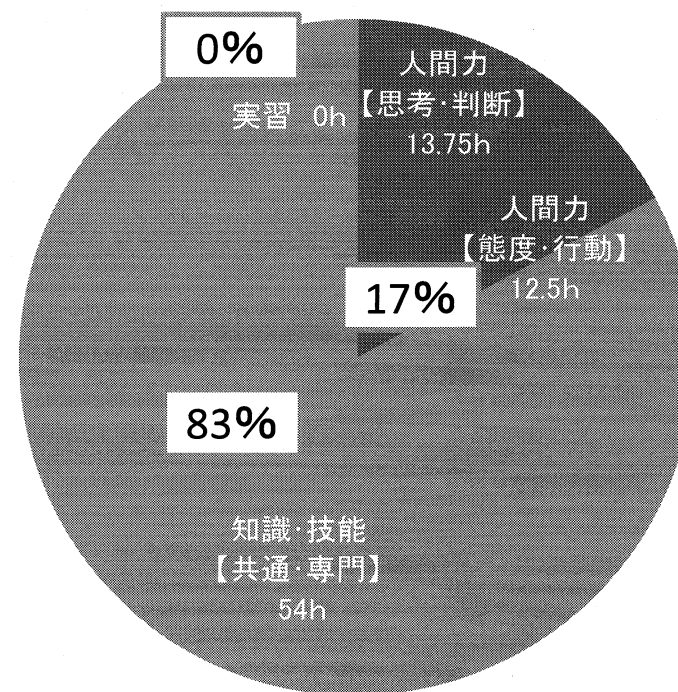
<モデル・コア・カリキュラム>

人間力	思考・判断	27h	34%
	態度・行動	36h	
知識・技能	一般共通	54h	39%
	専門共通	18h	
実習	現場実習	50h	27%



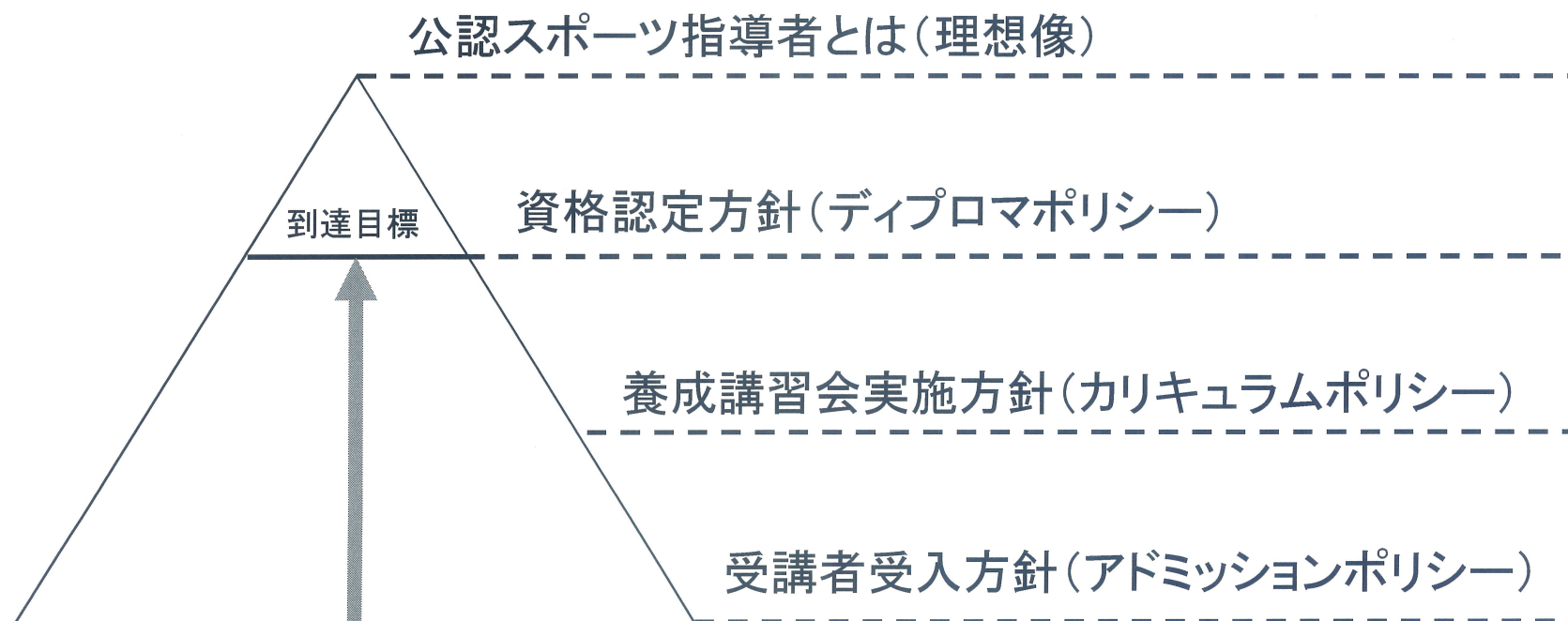
<共通科目Ⅰ～Ⅲ(現行)>

人間力	思考・判断	13.75h	17%
	態度・行動	12.5h	
知識・技能	一般共通	126.25h	83%
	専門共通		
実習	現場実習	0h	0%



【基本コンセプト】

日本スポーツ協会及び加盟団体等は、スポーツ文化を豊かに享受するというすべての人々がもつ基本的な権利を保障するため、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできるスポーツ指導者を公認スポーツ指導者として育成し、望ましい社会の実現に貢献する。



ロードマップ



公益財団法人

日本スポーツ協会

年度	共通科目Ⅰ	共通科目Ⅱ	共通科目Ⅲ	共通科目Ⅳ
2019年度 新制度 旧カリ／新カリ	現行制度による 通信講座（旧カリ）	モデル・コア・カリキュラムを用いた アクティブラーニング形態の講習会（新カリ）		
2020年度 新制度 新カリ	モデル・コア・カリキュラムを用いた通信講座（新カリ）			
2021年度				

※旧カリ＝2018年度までのカリキュラム

※新カリ＝モデル・コア・カリキュラムを基に作成するカリキュラム

※新カリにおける共通科目Ⅰの学習効果をより高めるため、共通科目Ⅰの集合講習会実施の方法については、今後、大学との連携を模索したい。

1. 競技別指導者資格の名称変更／スタートコーチの新設

上級コーチ	→	コーチ4	公認スポーツ指導者制度改定のキーワードのひとつである「学び続ける」環境を提供し、学びのステップアップを促進する趣旨から、左記のとおり変更。
コーチ	→	コーチ3	
上級指導員	→	コーチ2	
指導員	→	コーチ1	上位資格者と協力し安全で効果的な活動を提供するコーチングアシスタント（指導補助）。スポーツの意義と価値、指導者の倫理観、安全管理等を中心に1日の集合講習で取得可能。
		スタートコーチ（新設）	

2. カリキュラム・共通科目講習会実施形態の変更

共通科目

- ・コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」を導入
- ・共通科目コーチデベロッパー（コーチ育成者）によるアクティブラーニング形式の集合講習会を展開
- ・eラーニングや事後学習の導入

専門科目（競技別指導者資格）

- ・カリキュラム時間数の変更

3. 新資格（スポーツ指導者基礎資格）の創設（2020年度）

制度改定のコンセプトのひとつである「学び続ける」ことをスポーツ指導者基礎資格でも実現させるため、4年ごとの更新登録が必要な資格として新資格（スポーツ指導者基礎資格）を2020年度に創設する。

※スポーツリーダーの新規養成は、段階的に休止。併せて新資格への移行を受け付ける。

1-1 競技別指導者資格の名称変更

現行	改定後 (2019年4月1日～)
指導員	コーチ 1
上級指導員	コーチ 2
コーチ	コーチ 3
上級コーチ	コーチ 4

(例)

陸上競技指導員	陸上競技コーチ 1
テニスコーチ	テニスコーチ 3

●登録証の切り替えについて

新たな資格名称での登録証の発行は2019年4月1日付登録・更新手続きから順次、それぞれの資格更新手続きにあわせて対応（更新手続き以外での登録証の発行は、有料での対応）。

●指導者マイページの表記変更について

指導者マイページに表記されている資格名称は、2019年4月上旬に新名称に切替済（オリジナル名刺作成サービスも新名称に切替済）。

●その他

資格名称の変更に伴う手続きや追加の講習会等はなし。

公認スポーツ指導者制度・新制度における競技別指導者資格の概要

2019/4/1現在

No.	資格名称		スタートコーチ (新設)	コーチ1 (旧：指導員)	コーチ2 (旧：上級指導員)	コーチ3 (旧：コーチ)	コーチ4 (旧：上級コーチ)	教師	上級教師	備考
1	認定者		日本スポーツ協会(JSPO) 競技団体							スタートコーチについても 協同認定資格とする。
2	受講 科目	共通科目	共通科目スタートコーチ 15h	共通科目Ⅰ 45h	共通科目Ⅱ 135h	共通科目Ⅲ 150h	共通科目Ⅳ 151h以上	共通科目Ⅲ 150h	共通科目Ⅳ 151h以上	
		専門科目	専門科目 4h以上	専門科目 20h以上	専門科目 40h以上	専門科目 60h以上	専門科目 80h以上	専門科目 60h以上	専門科目 80h以上	
3	指導対象者像 (想定)		すべてのプレーヤー(幼児期・児童期の子どもから、中高年の愛好者・健康志向者、競技者を含むスポーツ実施者全体を指す) ※指導対象者の競技技能レベルや年齢等については、各専門科目実施団体において定める。							
4	受講条件		・受講年度の4月1日現在で満18歳以上の者 ・専門科目実施団体が認めた者	・受講年度の4月1日現在で 満20歳以上の者 ・専門科目実施団体が認めた者		・受講年度の4月1日現在で 満22歳以上の者 ・コーチ3資格保有者 ・専門科目実施団体が認めた者		・受講年度の4月1日現在で 満20歳以上の者 ・専門科目実施団体が認めた者	・受講年度の4月1日現在で 満22歳以上の者 ・教師資格保有者 ・専門科目実施団体が認めた者	・その他の条件については専門 科目実施団体が設定。 ・コーチ4はコーチ3資格の 保有を、上級教師は教師資格 の保有を必須とする。
5	受講者像 (想定)		・指導者としての知識・技能を 少しでも身に付けておきたい方	・スタートコーチ資格保有者 ・保護者・教員・ボランティア 等でコーチングを学びたい方	・コーチ1資格保有者 ・『6. 資格取得後の役割』を 現在担っている、または 今後担う意思がある方	・コーチ2資格保有者 ・『6. 資格取得後の役割』を 現在担っている、または 今後担う意思がある方	・コーチ3資格保有者で、 『6. 資格取得後の役割』を 現在担っている、または 今後担う意思がある方	・コーチ2資格保有者 ・『6. 資格取得後の役割』を 現在担っている、または 今後担う意思がある方	・教師資格保有者で、 『6. 資格取得後の役割』を 現在担っている、または 今後担う意思がある方	
			※受講者自身の競技経験や指導経験を加味するか否かは、競技特性などがあり一律に定めることがそぐわないため、各専門科目実施団体が決定する。							
6	資格取得後の役割 (講習内容を踏まえた 指導領域や役割)		・地域スポーツクラブ・スポーツ 少年団・学校運動部活動等での コーチングアシスタント (指導補助) ・上位資格者と協力して安全で 効果的な活動を提供する	・地域スポーツクラブ・スポーツ 少年団・学校運動部活動等での コーチングスタッフ ・基礎的な知識・技能に基づき、 安全で効果的な活動を提供する	・地域スポーツクラブ・スポーツ 少年団・学校運動部活動等の 監督・ヘッドコーチ ・責任者として安全で効果的な 活動を提供し、指導計画を 構築・実行・評価し監督する ・コーチ間の関わり・成長を 支援する	・ブロック～全国大会レベルの プレーヤー・チームに対して 競技力向上を目的とした コーチングを行う ・トップリーグ、実業団の コーチングアシスタント (指導補助)	・国際大会レベルのプレーヤー・ チームに対して競技力向上を 目的としたコーチングを行う ・トップリーグ、実業団の コーチングスタッフ ・ナショナルチームの コーチングスタッフ	・商業・民間スポーツ施設等で 幅広い年齢層の多様なスポーツ ライフスタイルを志向する 会員や利用者に応じた コーチングを行う ・クラブや商業・民間スポーツ 施設の日常運営業務にあたる	・商業・民間スポーツ施設等に おける実技指導の責任者・ チーフ ・クラブや商業・民間スポーツ 施設の企画・経営業務にあたる	・ブロックレベル以上の大会に 参加するコーチは、コーチ3 以上の資格取得を推奨する。 ・大会参加資格は各大会の定め による。
			※資格取得者の指導現場、指導対象者の活動目的に応じて、所属先および競技団体等の関係者と相談の上決定していくものであり、あくまで指標・目安として示すものである。							
7	共通科目受講で 得られるコンピテンシ (他者との関わりの中 で習得され、 発揮される能力)		・スポーツの意義と価値の理解 ・スポーツ・インテグリティの 理解 ・倫理的な指導・コミュニ ケーションの理解(暴力行為 根絶に向けた取組の理解) ・プレーヤーの安全管理	・スタートコーチ共通で得られる コンピテンシ ・倫理的な指導・コミュニ ケーション ・指導対象者との信頼関係構築 ・スポーツを通じたライフ デザインに係る基礎的理解	・共通科目Ⅰで得られる コンピテンシ ・所属先・保護者・他のコーチ との信頼関係構築 ・指導対象者のスポーツを通じた ライフデザインを念頭に置いた 指導力	・共通科目Ⅱまでで得られる コンピテンシ ・スタッフ(コンディショニング スタッフ等)との信頼関係構築 ・指導対象者自身が自らスポーツ を通じてライフデザインできる よう促す指導力	・クラブ／チームの経営資源の 有効活用 ・海外での活動、国際大会等への 準備と管理 ・指導対象者へのスポーツ・ インテグリティ教育 ・一般社会・メディアとの 関係構築 ・スポーツを通じてライフデザイ ンできるコーチを育成・指導	・共通科目Ⅱまでで得られる コンピテンシ ・スタッフ(商業・民間スポーツ 施設経営者等)との 信頼関係構築 ・指導対象者自身が自らスポーツ を通じてライフデザインできる よう促す指導力	・クラブ／施設の経営資源の 有効活用 ・多様な現場・環境(指導対象者 等)への準備と管理 ・指導対象者へのスポーツ・ インテグリティ教育 ・一般社会・メディアとの 関係構築 ・スポーツを通じてライフデザイ ンできるコーチを育成・指導	・講習内容の基準になるもので あると同時に資格認定時の 評価基準も兼ねるものである。 ・共通科目を学ぶ受講者が 得られるコンピテンシ。
			・当該競技の魅力を知る	・競技特性、技術構造等 当該競技への基礎的理解 ・日々の活動(練習・試合)を 実施するための指導力	・当該競技への基礎的理解を 踏まえた指導力 ・指導計画に関するビジョンと 戦略の設定 ・指導に適した環境整備(クラブ ／チームのマネジメント)	・当該競技の全体像を踏まえた 指導力 ・指導に適した環境整備	・当該競技を発展させることが 出来る指導力 ・海外での活動、国際大会への 準備と管理 (競技特性を踏まえる)	・当該競技の全体像と指導対象者 のニーズを踏まえた指導力 ・基本的なホスピタリティ ・クラブや商業・民間スポーツ 施設運営の基礎的知識	・当該競技の全体像と指導対象者 のニーズを踏まえた指導力 ・クラブや施設経営のビジョンと 戦略の設定、健全な経営能力	
8	専門科目受講で 得られると想定される コンピテンシ									

※No.7は、共通科目実施に係る内容です。

※No.3、5、6、8は、専門科目実施団体において協議・決定いただく内容ですが、指標・目安として記載をしております。

1-2 スタートコーチの新設（概要）



公益財団法人
日本スポーツ協会

- **役割**：総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングアシスタント（指導補助）として、上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供する者
- **養成団体：中央競技団体および同加盟・協力・関係団体**
 - ※実施に伴う手続き（申請・報告）は中央競技団体
 - ※カリキュラム作成済競技：バレーボール、フェンシング、バドミントン、スポーツクライミング
- **受講科目：共通科目スタートコーチ15h＋専門科目4h以上**
 - ※集合講習会は7時間30分（昼食時間除く）
- **受講条件：満18歳以上（受講年度の4月1日現在）で専門科目実施団体が認めた者**
- **受講料：中央競技団体において決定**
 - ※1名当たり1,000円（税別）の受講管理料を実施報告時に日本スポーツ協会に納入【2020年度開始予定のスタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会、受講管理料を徴収しない予定】
 - ※共通科目の教材として日本スポーツ協会作成のリファレンスブックを購入
- **登録料：10,000円（4年間）**
 - ※別途、新規登録時は初期登録手数料3,000円、競技によっては資格別登録料が必要
- **更新研修：他資格と同様（有効期限の6か月前までに最低1回受講）**
 - ※競技によっては指定された研修

2019年度に養成講習会を実施しないことが確定している競技（4/16時点）：フェンシング、バドミントン

1-2 スタートコーチの新設（基本日程）

合計：7時間30分（昼食時間除く）

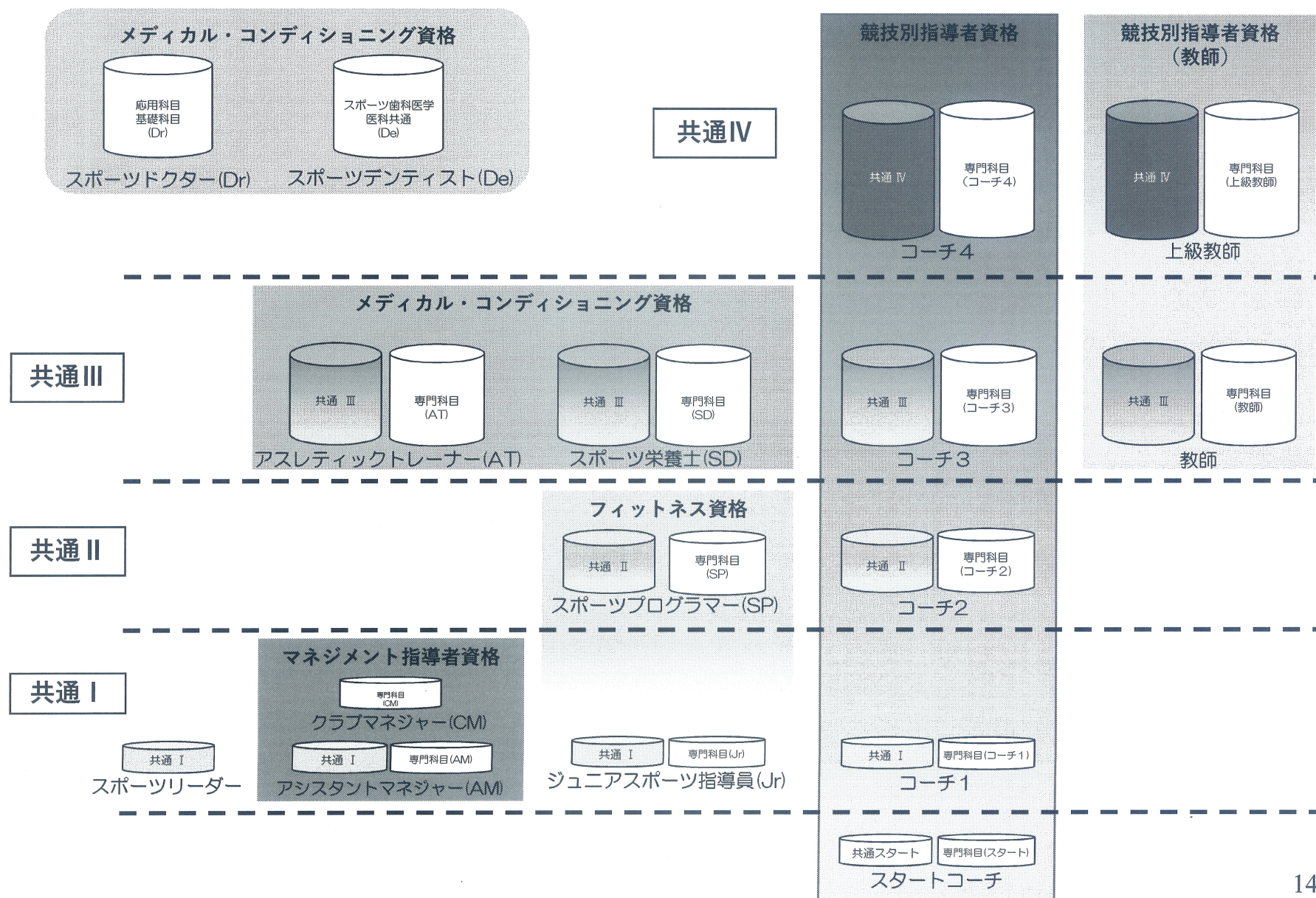
共通科目・専門科目 別運営	共通科目・専門科目 統合運営
場作り(導入) 【20分】	場作り(導入) 【20分】
指導者の責任と役割(共通) 【70分】	安全なスポーツ実施環境を確保する 【60分】
指導のプロセス(共通) 【90分】	適切なウォームアップを指導する 【60分】
専門科目 【240分】	プレーヤーが主体的に取り組める 練習を計画、運営する(1) 【60分】
	プレーヤーが主体的に取り組め る練習を計画、運営する(2) 【130分】
	適切なクールダウン 【60分】
コーチ自身の成長の計画を 立ててみよう 【30分】	コーチ自身の成長の計画を 立ててみよう 【60分】

2-1 カリキュラムの変更 カリキュラム相関図



公益財団法人

日本スポーツ協会



2-1 カリキュラムの変更 共通科目・新旧対比(考え方)

旧カリキュラム

科目の区分によって、
学ぶ科目名(項目名)が異なる

共通Ⅳ 40h

科目名	内容	単位数
1. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
2. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
3. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
4. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10

共通Ⅲ 82.5h

科目名	内容	単位数
1. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
2. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
3. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
4. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
5. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
6. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
7. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
8. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
9. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
10. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10

共通Ⅱ 35h

科目名	内容	単位数
1. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
2. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
3. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
4. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
5. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10

共通Ⅰ 35h

科目名	内容	単位数
1. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
2. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
3. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
4. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10
5. 基礎的知識・基礎的技術	基礎的知識・基礎的技術	10

新カリキュラム

科目の区分に関わらず、学ぶ項目名は共通
【区分によって学ぶ内容の深さ・量が異なる】

↓
全ての受講者が資質能力区分を一通り学習

共通Ⅳ
151h以上

共通Ⅲ 150h

共通Ⅱ 135h

共通Ⅰ 45h

共通スタート 15h

- 1.グッドコーチ(日本スポーツ協会公認スポーツ指導者)に求められる人間力
 - (1)コーチングを理解しよう
 - ①コーチングおよびコーチとは
 - ②スポーツの意義と価値
 - ③コーチに求められる知識とスキル
 - (2)対他者を磨こう
 - ①リーダーシップ
 - ②信頼関係構築におけるコミュニケーションの重要性
 - (3)対自己力を磨こう
 - ①コーチの学びとセルフマネジメント
- 2.グッドコーチ(日本スポーツ協会公認スポーツ指導者)に求められる医・科学的知識
 - (1)安全なスポーツ環境の構築
 - (2)スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系
 - (3)体力のトレーニング
 - (4)スキルのトレーニング
 - (5)心のはたらきと向き合い方
 - (6)スポーツと栄養
 - (7)スポーツに関連する医学的知識
 - (8)アンチ・ドーピング
- 3.現場・環境に応じたコーチング
 - (1)コーチング環境の特徴
 - (2)コーチングにおけるリスクマネジメント
 - (3)ハイパフォーマンスアスリートに対するコーチング
 - (4)スポーツ組織のマネジメント
 - (5)アントラージュの一員としてコーチングを理解する

※共通Ⅰの簡易版(コーチングと安全管理が中心)

資格認定方針				スタートコーチ共通	共通Ⅰ	共通Ⅱ	共通Ⅲ	共通Ⅳ	
日本スポーツ協会及び加盟団体等は、公認スポーツ指導者育成の基本コンセプトに基づき、養成講習会の受講等により所定のカリキュラムを修了し、以下の資質能力(思考・判断、態度・行動、知識技能)を身に付けた者を、公認スポーツ指導者として認定します。 ・スポーツの価値や未来への責任を理解することができる。 ・プレーヤーズセンターのもとに、あらゆる反倫理的行為を排除できる。 ・常に学び続けることができる。 ・プレーヤーの成長を支援することを通じて、スポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる。 ・求められる役割に応じて、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導することができる。 ・求められる役割に応じて、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる。	到達水準	・スポーツ指導に係る必要最低限の知識・技能を持っている ・スポーツ指導に係る基礎的な一般知識を持っている ・スポーツ指導に係る理論的知識や事実的知識を幅広く持っている ・スポーツ指導に係る高度な理論的知識や事実的知識を幅広く多様に持っている ・スポーツ指導に係る様々な分野の先端知識を持っている ・スポーツを取り巻く環境の変化や未来予測を踏まえて自ら設定した課題を解決するとともに、スポーツ指導の革新を牽引していく高度な技能を持っている							
		・常に自らを内省し、課題を設定することで、知識と技能の幅を広げていく意志を持っている							
リファレンスブック目次(案)				学習内容					
1. グッドコーチ(日本スポーツ協会公認スポーツ指導者)に求められる人間力	(1)コーチングを理解しよう	1.1	コーチングを理解しよう	スポーツは、生活の一部として、生活を豊かに彩る文化です。コーチの役割は、プレーヤー一人ひとりが望むパフォーマンスの発揮を支援することはもちろんですが、スポーツを“すること”、“みること”、“ささえること”などを通じて、自身の生活(人生)をより彩りあるものにデザインすること(スポーツ・ライフデザイン)を支援することも求められます。 上記のようにプレーヤーの幅広いニーズに応えるため、コーチ自身が学ぶことが必要です。併せて、プレーヤーズセンターの考えのもと、プレーヤーの主体的な学び(行動)を支援することについて学びます。 さらに、プレーヤーのお手本となるべきコーチには、高い倫理観・規範意識が求められます。スポーツのコーチング文化を構築していく一員として、6つの思考・行動(モデル・コア・カリキュラムから抜粋)が実行できることの重要性を学びます。					
		①コーチングおよびコーチとは	1.1.1						コーチングとは
			1.1.1.1						コーチングとコーチの定義
			1.1.1.1.1						グッドプレーヤーを育てるグッドコーチ
			1.1.1.3.1						人権・暴力・ハラスメントの根絶、ガバナンス
			1.1.1.3.2						プレーヤーズセンター
			1.1.1.3.3						コーチの倫理観・規範意識
			1.1.1.1.2						効果的なコーチング
			1.1.1.1.3						学びを促すコーチング
		②スポーツの意義と価値	1.1.1.2						スポーツの意義と価値
			1.1.1.2.1						スポーツ宣言日本
			1.1.1.2.2						世界的な流れとしてのオリンピズム(オリンピック・パラリンピック)
			1.1.1.3						時代をリードするコーチング
	1.1.1.3.4		女性コーチの活躍とスポーツを通じた女性の社会進出						
	1.1.1.3.5	インクルーシブな社会をつくるコーチング							
	③コーチに求められる知識とスキル	1.1.2	コーチに求められる役割						
		1.1.2.1	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者が負う責任と求められる役割						
		1.1.2.2	コーチの果たすべき役割						
		1.1.2.2.1	ビジョンや戦略の設定						
		1.1.2.2.2	コーチング環境の形成						
		1.1.2.2.3	人間関係の構築、関係者(アントラージュ)との信頼関係構築						
		1.1.2.2.4	目標達成に向けた計画の立案と指導						
		1.1.2.2.4.1	目標設定						
		1.1.2.2.5	コーチング現場での観察と意思決定						
		1.1.2.2.6	学習と評価						
		1.1.2.3	安全なスポーツ環境の構築(予防)と問題発生時の対処法						
		1.1.3	コーチに求められる知識とスキル						
		1.1.3.1	宣言的知識						
	1.1.3.1.1	スポーツの意義と価値							
	1.1.3.1.2	コーチの倫理観・規範意識							
	1.1.3.1.3	スポーツ科学等の知識							
	1.1.3.2	手続的知識(できる、スキル)							
	1.1.3.2.1	対他者スキル							
	1.1.3.2.1.1	コミュニケーションスキル							
	1.1.3.2.1.2	ファシリテーションスキル							
	1.1.3.2.1.3	プレゼンテーションスキル							
	1.1.3.2.1.4	チームビルディング							
	1.1.3.2.1.5	コーディネート、コンサルティング、メンタリング他							
	1.1.3.2.2	対自己スキル							
	1.1.3.2.2.1	セルフマネジメント、リフレクションと自己認識、コーチング哲学							
	1.1.3.2.2.2	様々な思考法							
	1.1.3.2.2.2.1	論理的思考							
	1.1.3.2.2.2.2	分析的思考							
	1.1.3.2.2.2.3	創造的思考							
	1.1.3.2.2.2.4	批判的思考							
	1.1.3.2.2.2.5	課題発見・課題解決							

資格認定方針			スタートコーチ共通	共通Ⅰ	共通Ⅱ	共通Ⅲ	共通Ⅳ			
日本スポーツ協会及び加盟団体等は、公認スポーツ指導者育成の基本コンセプトに基づき、養成講習会の受講等により所定のカリキュラムを修了し、以下の資質能力(思考・判断、態度・行動、知識技能)を身に付けた者を、公認スポーツ指導者として認定します。 ・スポーツの価値や未来への責任を理解することができる。 ・プレーヤーズセンタードのもとに、あらゆる反倫理的行為を排除できる。 ・常に学び続けることができる。 ・プレーヤーの成長を支援することを通じて、スポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる。 ・求められる役割に応じて、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導することができる。 ・求められる役割に応じて、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる。	到達水準		・スポーツ指導に係る必要最低限度の知識・技能を持っている	・スポーツ指導に係る基礎的な一般知識を持っている ・スポーツ指導に係る目標達成に向けた簡単な課題を解決するのに必要となる基礎的な技能を持っている	・スポーツ指導に係る理論的知識や事実的知識を幅広く持っている ・スポーツ指導に係る目標達成に向けた複雑な課題を解決するのに必要となる基礎的な技能を持っている	・スポーツ指導に係る高度な理論的知識や事実的知識を幅広く多様に持っている ・スポーツ指導に係る目標達成に向けた複雑で予測困難な課題を解決するのに必要となる高度な技能を持っている	・スポーツ指導に係る様々な分野の先端的知識を持っている ・スポーツを取り巻く環境の変化や未来予測を踏まえて自ら設定した課題を解決するとともに、スポーツ指導の革新を牽引していく高度な技能を持っている			
			・常に自らを内省し、課題を設定することで、知識と技能の幅を広げていく意志を持っている							
リファレンスブック目次(案)			学習内容							
1・グッドコーチ(日本スポーツ協会公認スポーツ指導者)に求められる人間力	(2)対他者力を磨こう	1.2	対他者力を磨こう	リーダーとは、立場や役職を問わず、他者の思考・行動の変容に影響を与えた人となります。また、コーチは、プレーヤーに対してリーダーシップを発揮する重要な立場であること、およびプレーヤー自身も他のプレーヤーに対してはリーダーになり得ることを学びます。 また、リーダーシップに正解はなく、対象者を目的実現に導くことが第一義であることを学びます。						
		①リーダーシップ	1.2.1						リーダーシップ	
		②信頼関係構築におけるコミュニケーションの重要性	1.2.2	信頼関係構築におけるコミュニケーションの重要性	コーチングの対象者であるプレーヤー個人、およびプレーヤーの集合体であるチーム、さらにはプレーヤー(チーム)を取り巻くアンタージュを理解し、コーチの言葉がけとその影響を学びます。 また、これらの合意を形成するために必要となる知識や対処方法を学びます。					
			1.2.3	コミュニケーションスキル						
			1.2.3.1	観察						
			1.2.3.2	積極的傾聴						
			1.2.3.3	承認						
			1.2.3.4	質問						
		(3)対自己力を磨こう	1.3	対自己力を磨こう	適切なコーチングを行うためには、コーチ自身の生活が充実し幸福であることがベースになります。そのため、プレーヤーだけではなく、コーチ自身が自らの生活をスポーツを通じてデザインすることが重要であることを学びます。そのうえで、特にコーチングの場面におけるセルフコントロールの各種技法(アンガーマネジメントなど)の基礎を身に付け、思考と行動の変容を促すことの重要性を学びます。					
			①コーチの学びとセルフマネジメント	1.3.1						コーチの学び
			1.3.1.1	学びの場						
			1.3.1.2	セルフモニタリングと省察、自己評価、他者評価						
	1.3.1.3		コーチの成長過程とキャリアデザイン							
	1.3.2		コーチのセルフマネジメント							
	1.3.2.1		コーチのメンタルマネジメント							
	1.3.2.2		アンガーマネジメント							
	1.3.2.3		リラクゼーション							
	1.3.2.4		レジリエンス							
	1.3.3		様々な思考法							
	1.3.3.1		論理的思考							
	1.3.3.2	分析的思考								
	1.3.3.3	創造的思考								
	1.3.3.4	批判的思考								
	1.3.3.5	課題発見・課題解決								
2・グッドコーチに求められる医・科学的知識	(1)安全なスポーツ環境の構築	2.1	安全なスポーツ環境の構築(スポーツ安全、スポーツ法学会)	スポーツには様々な危険が内在しています。コーチは、プレーヤーが安全にスポーツを行う環境を整えることが基本的な責務であることを学びます。また、安全なスポーツ環境を構築するうえで留意すべき事項について理解し、確認ができるようになることの重要性を学びます。						
		2.1.1	保険							
		2.1.2	用具/施設の点検							
		2.1.3	気温等環境への対処							
		2.1.4	プレーヤーの体調管理							
		2.1.5	緊急連絡先リスト、AED設置場所の確認							
		2.1.6	行き帰り							
		2.1.7	緊急の避難経路確認							
		2.1.8	安全なプログラム(準備運動、内容、クールダウン、難易度等)							
	(2)スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	2.2	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	スポーツパフォーマンスは、単一の事象によって構築されるものではなく、多数の要因(トレーニングの手段、方法、計画など)が有機的に影響し合っているシステムとして構築されています。この複雑で難解なパフォーマンスの向上を目指す思考と行為、作業の総称がトレーニングであることを学びます。そのうえで、数ある情報の中から意味ある情報のみを取捨選択し、それらを高いレベルで加工しながら意味を創出させ、トレーニング実践へと取り入れるトレーニングサイクルを理解し、活用できるようになることの重要性を学びます。						
		2.2.1	スポーツトレーニングサイクル							
		2.2.2	トレーニング目標論							
		2.2.3	トレーニング手段・方法論							
		2.2.4	トレーニング計画論							
		2.2.5	試合行動論							
		2.2.6	トレーニングアセスメント論							
		2.2.7	コンディショニング							
		2.2.8	効果的な休養							
		2.2.8.1	運動と休養のバランス							
		2.2.8.1.1	身体的な休養							
		2.2.8.1.2	精神的な休養							
		2.2.8.2	休養を計画する							
		2.2.8.3	質の高い睡眠を確保する							

資格認定方針				スタートコーチ共通	共通Ⅰ	共通Ⅱ	共通Ⅲ	共通Ⅳ
日本スポーツ協会及び加盟団体等は、公認スポーツ指導者育成の基本コンセプトに基づき、養成講習会の受講等により所定のカリキュラムを修了し、以下の資質能力(思考・判断、態度・行動、知識技能)を身に付けた者を、公認スポーツ指導者として認定します。 ・スポーツの価値や未来への責任を理解することができる。 ・プレーヤーズセンタードのもとに、あらゆる反倫理的行為を排除できる。 ・常に学び続けることができる。 ・プレーヤーの成長を支援することを通じて、スポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる。 ・求められる役割に応じて、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導することができる。 ・求められる役割に応じて、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる。				・スポーツ指導に係る必要最低限度の知識・技能を持っている	・スポーツ指導に係る基礎的な一般知識を持っている ・スポーツ指導に係る目標達成に向けた簡単な課題を解決するのに必要となる基礎的な技能を持っている	・スポーツ指導に係る理論的知識や事実に基づく知識を持っている ・スポーツ指導に係る目標達成に向けた複雑な課題を解決するのに必要となる基礎的な技能を持っている	・スポーツ指導に係る高度な理論的知識や事実に基づく知識を幅広く多様に持っている ・スポーツ指導に係る目標達成に向けた複雑で予測困難な課題を解決するのに必要となる高度な技能を持っている	・スポーツ指導に係る様々な分野の先端的知識を持っている ・スポーツを取り巻く環境の変化や未来予測を踏まえて自ら設定した課題を解決するとともに、スポーツ指導の革新を牽引していく高度な技能を持っている
				・常に自らを内省し、課題を設定することで、知識と技能の幅を広げていく意志を持っている				
				リファレンスブック目次(案)				学習内容
2・グッドコーチに求められる医・科学的知識	(3)体力のトレーニング	2.3	体力のトレーニング	体力には大きく身体的要素と精神的要素があることを学びます。 また、日常生活でからだにかかる以上の負荷や、あるレベル以上の負荷を果たすこと(過負荷)によって、トレーニング効果が得られるオーバーロードや、全面性・意識性・漸新性・個別性・反復性というトレーニングの原則を理解することの重要性を学びます。 さらに、筋力トレーニング、パワートレーニング、持久力トレーニング、柔軟性トレーニングなどの手段および方法について理解し、活用できるようになることの重要性を学びます。				
		2.3.1	身体のしくみと働き					
		2.3.2	体力を構成する要素の体系					
		2.3.3	体力トレーニングの原理・原則					
		2.3.4	筋力トレーニング					
		2.3.5	パワートレーニング(無酸素性(解糖系)トレーニング)					
		2.3.6	持久力トレーニング					
		2.3.7	柔軟性トレーニング					
		2.3.8	アジリティトレーニング					
		2.3.9	体力トレーニング手段の組み合わせ方					
	(4)スキルのトレーニング	2.4	スキルのトレーニング	巧みに身体を動かすために、自らと他者を観察することで、巧みさを生み出す身体の構造と働きを理解することの重要性を学びます。 また、運動によって得られる筋感覚や内部知覚をプレーヤーに体感させ、学習させられるようになることの重要性を学びます。				
		2.4.1	スポーツ技術					
		2.4.2	スキル					
		2.4.3	バイオメカニクス					
		2.4.4	自己観察					
		2.4.5	他者観察					
		2.4.6	運動感覚(筋感覚・内部知覚)					
		2.4.7	運動学習					
	(5)心のはたらきと向き合い方	2.5	心のトレーニング	スポーツが心にもたらす効果・影響と、心がスポーツのパフォーマンスに与える効果・影響などについての基礎的知識を学びます。 そのうえで、効果的なトレーニングを進めるために有効となる動機づけの理論や、各種の心理技法の基礎を学びます。 さらに、より高いパフォーマンスを発揮するうえで有効となる、バーンアウトの予防やスランプへの適切な対処法、あがりの克服、試合場面での実力発揮の支援法を理解し、活用できるようになることの重要性を学びます。				
		2.5.1	目標設定					
		2.5.2	緊張コントロール					
		2.5.3	ストレスマネジメント					
		2.5.4	ポジティブ・シンキング					
		2.5.5	イメージトレーニング					
		2.5.6	認知的スキル					
		2.5.7	あがり、プレッシャー、スランプについて					
		2.5.8	性格					
		2.5.9	自己概念					
		2.5.10	フィードバック					
	(6)スポーツと栄養	2.6	スポーツと栄養	スポーツ活動・運動を支える栄養摂取についての基本的な知識と水分補給について学びます。 また、プレーヤー個人やチームの目標・ニーズ、トレーニングの目的に合った食事のとり方を習得することの重要性を学びます。				
		2.6.1	スポーツに効果的な栄養摂取					
		2.6.1.1	五大栄養素の役割					
		2.6.1.2	栄養素等摂取量、栄養摂取基準					
		2.6.1.3	サプリメント					
		2.6.1.4	食事の基本					
		2.6.1.5	水分補給					
(7)スポーツに関連する医学的知識	2.6.1.6	栄養・食事計画の立案						
	2.7	スポーツに関連する医学的知識	スポーツを行ううえで、身体組成や生理現象などの内科的な基礎的知識と、スポーツ活動中に起こりやすい外傷や外科的障害に関する基礎的知識を習得し、具体的な予防法や対処法を学びます。 また、一次救命処置(BLS:Basic Life Support)の重要性を知り、知識と処置の方法を学び、活用できるようになることの重要性を学びます。					
	2.7.1	スポーツと健康						
	2.7.1.1	加齢現象						
	2.7.1.2	健康の定義						
	2.7.1.3	生活習慣病						
	2.7.1.4	運動の心理的効果						
	2.7.2	外傷・障害の予防および応急処置						
	2.7.2.1	心肺蘇生法(CPR)						
	2.7.2.2	自動体外式除細動器(AED)						
	2.7.2.3	RICE処置(その他の応急処置)						
	2.7.2.4	外傷・障害の予防						
	2.7.2.5	熱中症予防						
	2.7.2.6	メディカルケア(ストレッチング・テーピング・アイシング)						

資格認定方針				スタートコーチ共通	共通Ⅰ	共通Ⅱ	共通Ⅲ	共通Ⅳ
日本スポーツ協会及び加盟団体等は、公認スポーツ指導者育成の基本コンセプトに基づき、養成講習会の受講等により所定のカリキュラムを修了し、以下の資質能力(思考・判断、態度・行動、知識技能)を身に付けた者を、公認スポーツ指導者として認定します。 ・スポーツの価値や未来への責任を理解することができる。 ・プレーヤーズセンタードのもとに、あらゆる反倫理的行為を排除できる。 ・常に学び続けることができる。 ・プレーヤーの成長を支援することを通じて、スポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる。 ・求められる役割に応じて、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導することができる。 ・求められる役割に応じて、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる。	到達水準		・スポーツ指導に係る必要最低限度の知識・技能を持っている	・スポーツ指導に係る基礎的な一般知識を持っている ・スポーツ指導に係る目標達成に向けた簡単な課題を解決するのに必要となる基礎的な技能を持っている	・スポーツ指導に係る理論的知識や事実的知識を幅広く持っている ・スポーツ指導に係る目標達成に向けた複雑な課題を解決するのに必要となる基礎的な技能を持っている	・スポーツ指導に係る高度な理論的知識や事実的知識を幅広く多様に持っている ・スポーツ指導に係る目標達成に向けた複雑で予測困難な課題を解決するのに必要となる高度な技能を持っている	・スポーツ指導に係る様々な分野の先端知識を持っている ・スポーツを取り巻く環境の変化や未来予測を踏まえて自ら設定した課題を解決するとともに、スポーツ指導の革新を牽引していく高度な技能を持っている	
			・常に自らを内省し、課題を設定することで、知識と技能の幅を広げていく意志を持っている					
リファレンスブック目次(案)				学習内容				
2 座 ・ 基 本 的 知 識	(8)アンチ・ドーピング	2.8 2.8.1 2.8.2 2.8.3 2.8.4	アンチ・ドーピング アンチ・ドーピング規定と我が国の対応 ドーピングコントロールとドーピング検査 禁止薬物(治療目的使用にかかわる除外措置) スポーツ・ファーマシスト	アンチ・ドーピングに関する知識を理解し、その最新の情報をコーチ自らが収集できるようになることの重要性を学びます。				
3 ・ 現 場 ・ 環 境 に 応 じ た コ ー チ ン グ	(1)コーチング環境の特徴 (2)コーチングにおけるリスクマネジメント (3)ハイパフォーマンスアスリートに対するコーチング (4)スポーツ組織のマネジメント (5)アントラージュの一員としてコーチングを理解する	3 3.1 3.1.1 3.1.2 3.1.3 3.1.4 3.1.4.1 3.1.4.2 3.1.5 3.1.5.1 3.1.5.2 3.2 3.2.1 3.2.2 3.3 3.4 3.5 3.5.1 3.5.2 3.5.3	現場・環境に応じたコーチング コーチング環境の特徴 ジュニア期のコーチングの留意点 運動部活動でのコーチングの留意点 中高年齢者へのコーチングの留意点 性別の考慮 女性を対象としたコーチングの留意点 性的マイノリティ(LGBT)に対するコーチングの留意点 多様な文化的背景を考慮したコーチング 宗教や文化の考慮 外国人アスリートへの指導 コーチングにおけるリスクマネジメント SNS モラル・人権 ハイパフォーマンスアスリートに対するコーチング スポーツ組織のマネジメント アントラージュの一員としてコーチングを理解する スポーツ科学者、ドクター、栄養士、技術者 保護者 オフィシャル	<3. (1)～(5)を通じて> コーチングは様々なスポーツ現場で行われることから、現場の特徴・現状を把握し、現場で生じる問題を解決する手立てを得ることの重要性を学びます。 加齢現象(発育発達期、成熟期、老化期)の特性や、競技レベル、性別、障がいの有無・特性を理解し、これを踏まえた指導を行うことができることの重要性を学びます。 また、スポーツ事故に関するリスクマネジメントとスポーツと人権について、法律上の責任を理解することの重要性を学びます。 さらに、クラブ・チームの運営と事業展開におけるマネジメント能力を身に付けることの重要性を学びます。				

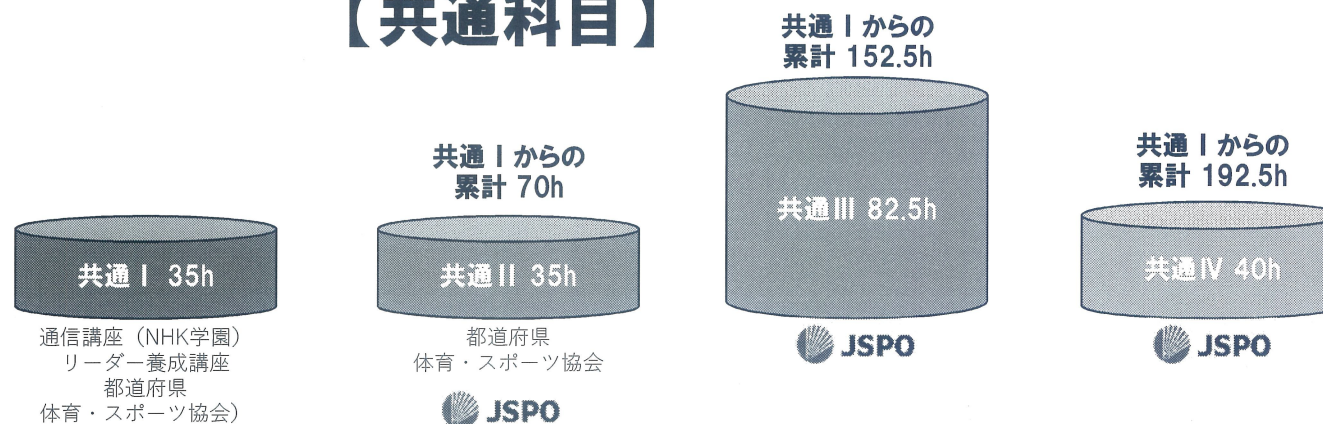
2-1 カリキュラムの変更 共通科目・時間数対比



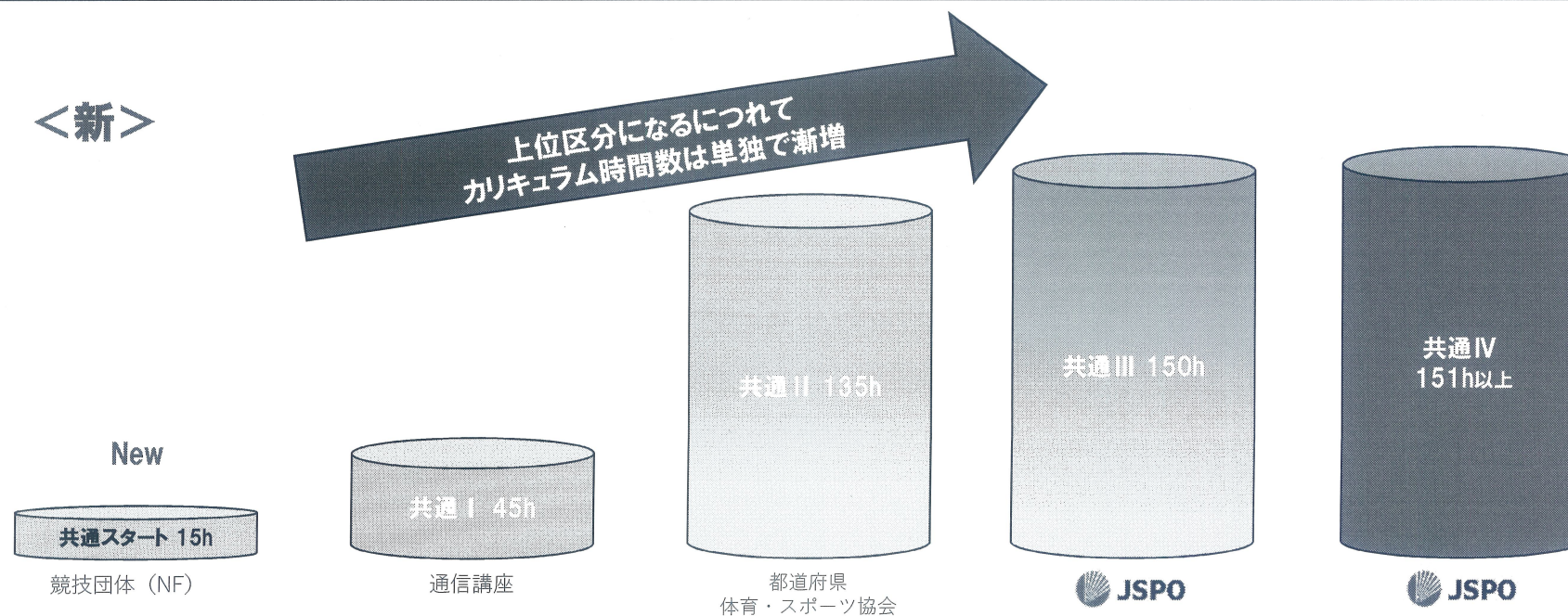
公益財団法人
日本スポーツ協会

カリキュラム時間数(集合 & 自宅)の漸増 【共通科目】

<旧>



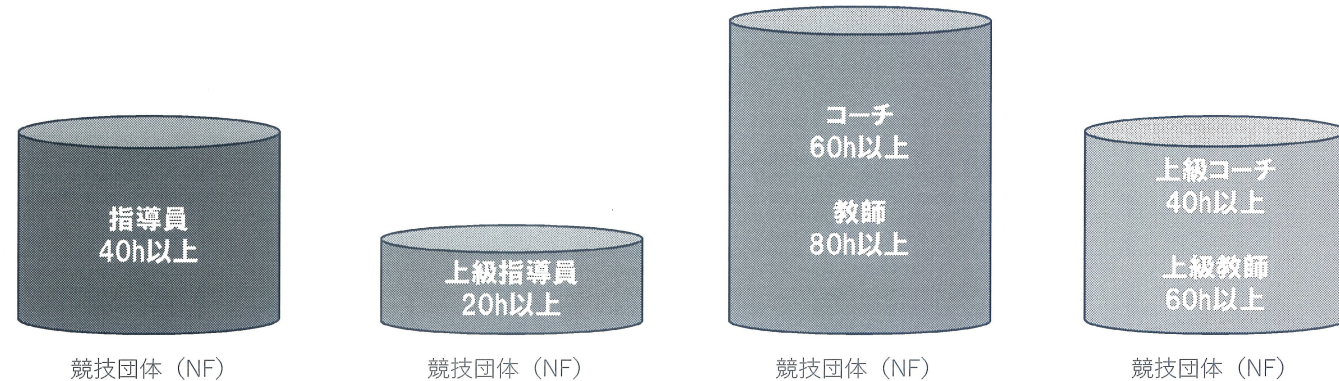
<新>



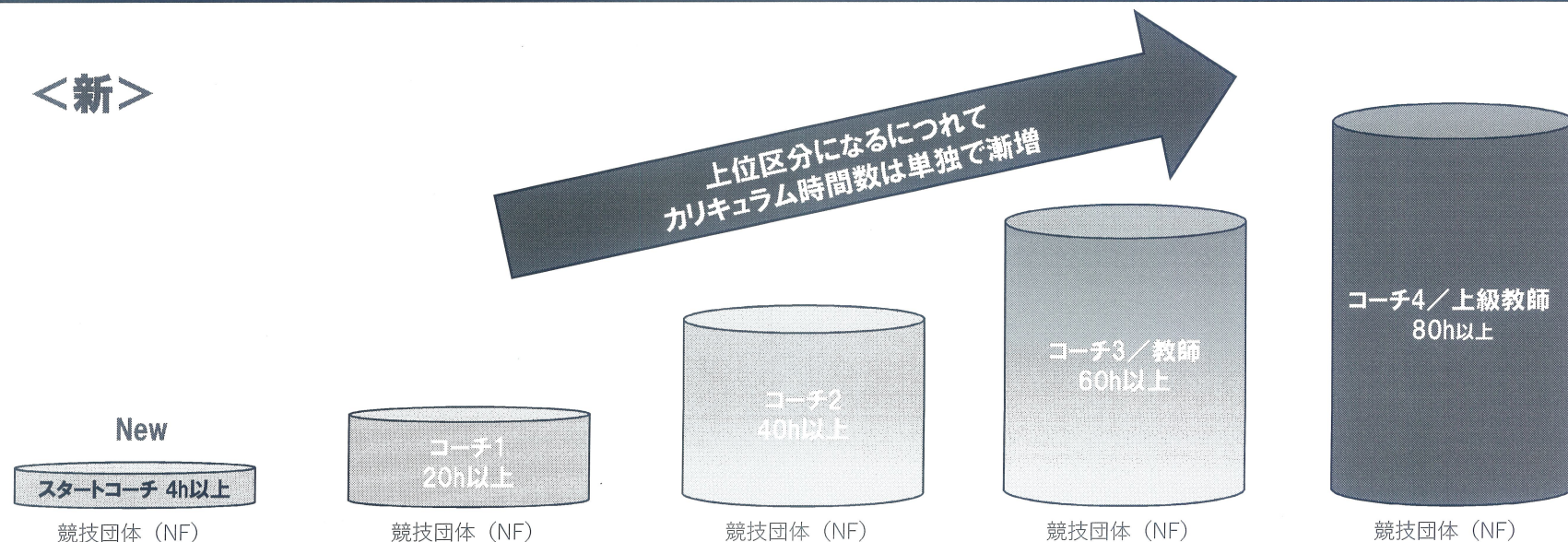
2-1 カリキュラムの変更 専門科目・時間数対比

カリキュラム時間数(集合 & 自宅)の漸増 【専門科目】

<旧>



<新>



2-1 カリキュラムの変更 時間数対比【合計】



公益財団法人

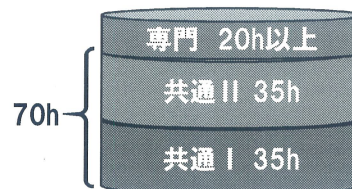
日本スポーツ協会

<旧>

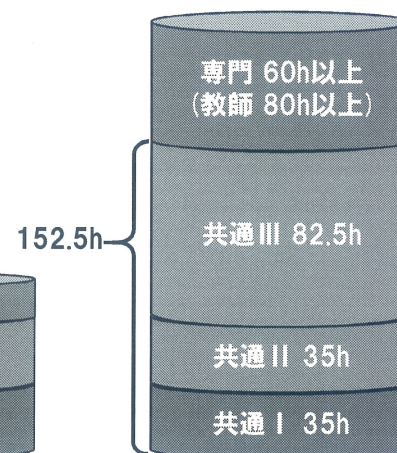
指導員
75h以上



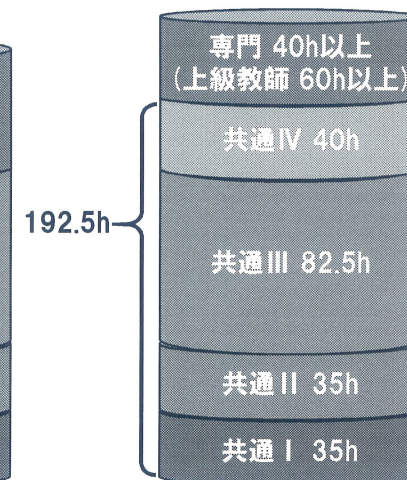
上級指導員
90h以上



コーチ/教師
212.5h以上



上級コーチ/上級教師
232.5h以上



<新>

スタートコーチ
19h



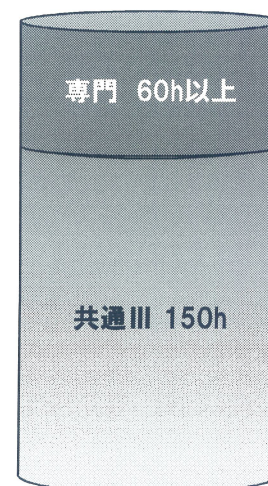
コーチ1
65h以上



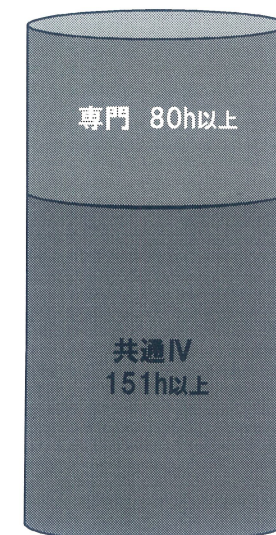
コーチ2
175h以上



コーチ3/教師
210h以上

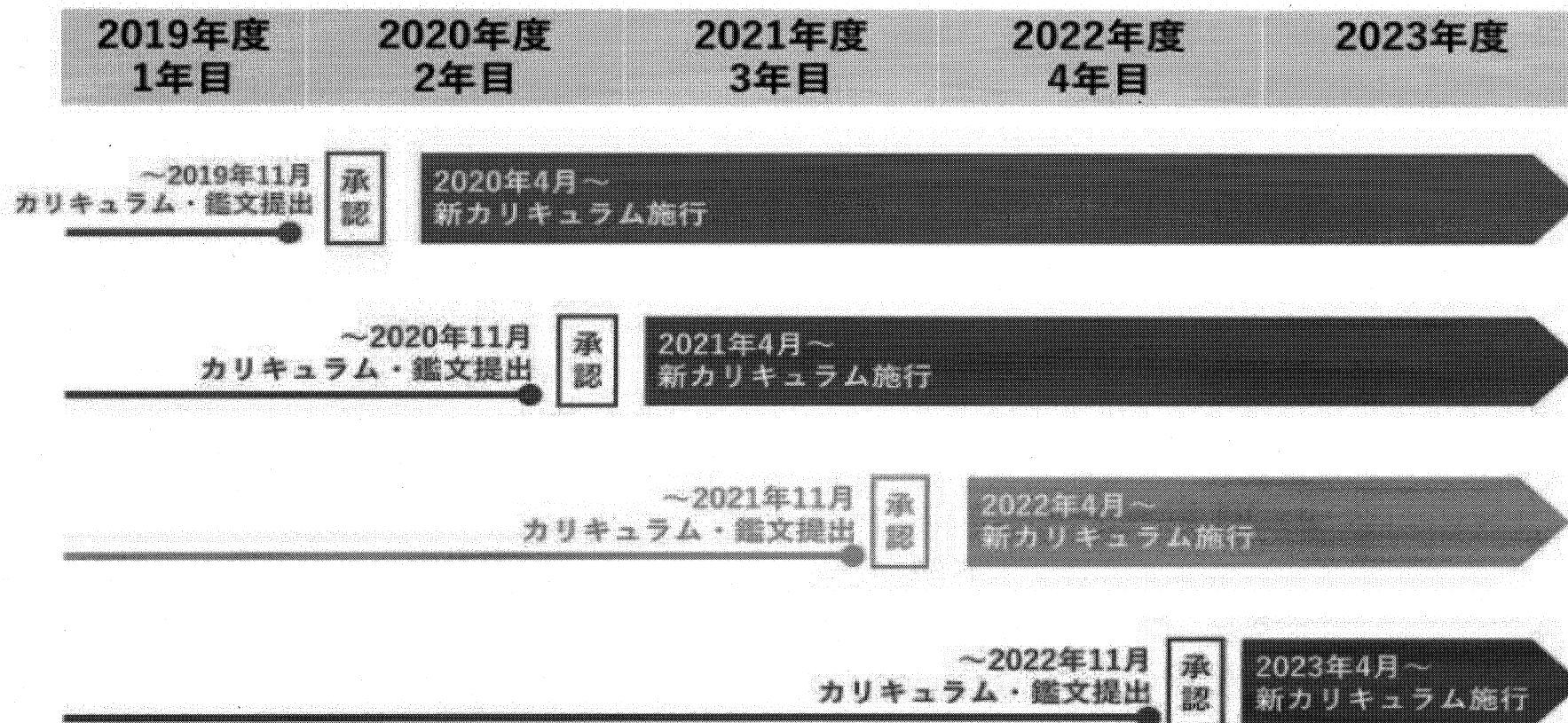


コーチ4/上級教師
231h以上



2-1 カリキュラムの変更 専門科目カリキュラム

改定移行期間：2019～2022年度



※公認スポーツ指導者制度改定に伴う覚書

各団体と締結している覚書について、2019年4月1日以降、養成内容等の変更（専門科目カリキュラム改定やスタートコーチ養成開始等）にあわせて、新たな内容により締結

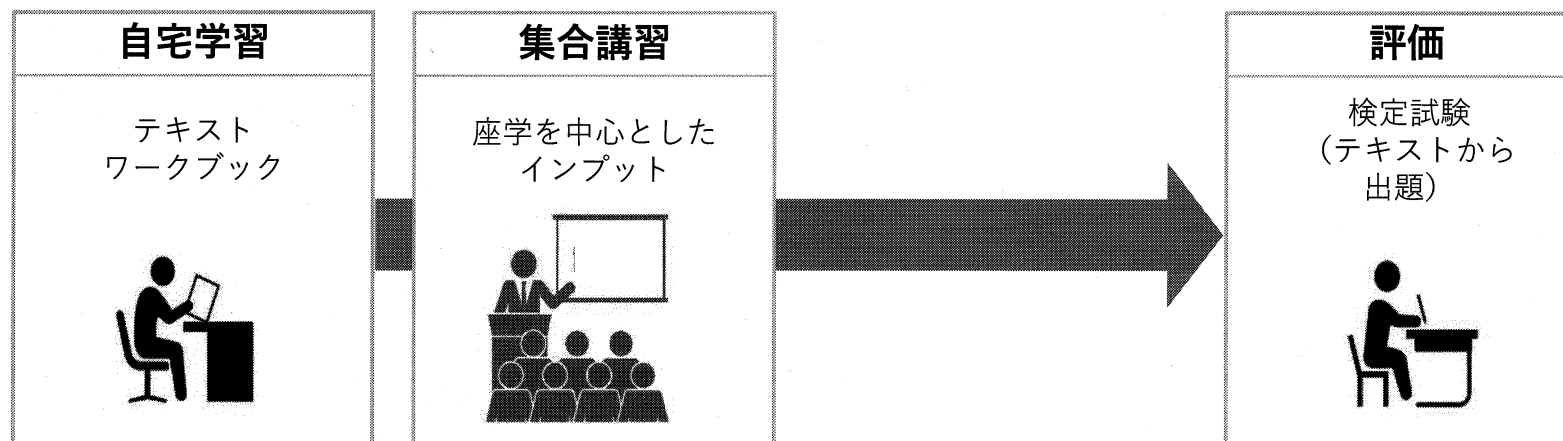
2-2 共通科目講習会実施形態の変更 全体の流れ



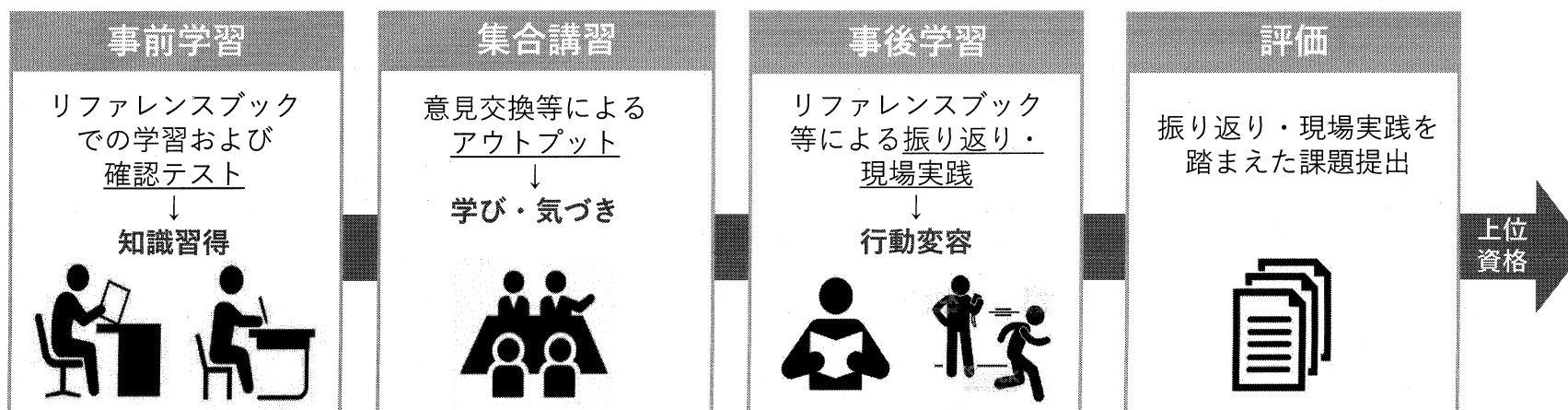
公益財団法人

日本スポーツ協会

旧



新



2-2 共通科目講習会実施形態の変更 事前学習

イメージ画像

TOP [京橋_東京南デモサービス10] カウンティング 2019/04/10 13:00 追加のコンテンツをダウンロード

コンテンツ検索

マルチデバイス対応 統合スキルアップパッケージ
ひかりクラウド
スマートスタディ
ビジネスに効率化と可能性を。

お知らせ

ライブ

＜共通科目＞
SPORT
2019_JSPO共通科目Ⅰ（事前）
進捗率 100% 完了

＜共通科目＞
SPORT
2019_JSPO共通科目Ⅱ（後）
進捗率 0% 完了

第 1問 / 全 5問

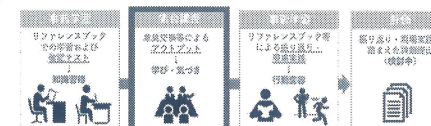
サンプル_共通科目 I_検定試験_001
公認スポーツ指導者について正しいのはどれか。

- ① 日本体育協会だけで養成・認定している。
- ② スポーツ医・科学の知識はあまり重要でない。
- ③ 常にプレーヤーを最優先するというスタンスに立つ。
- ④ スポーツの本質的な楽しさよりも人生の厳しさを強く伝える。

次へ 採点

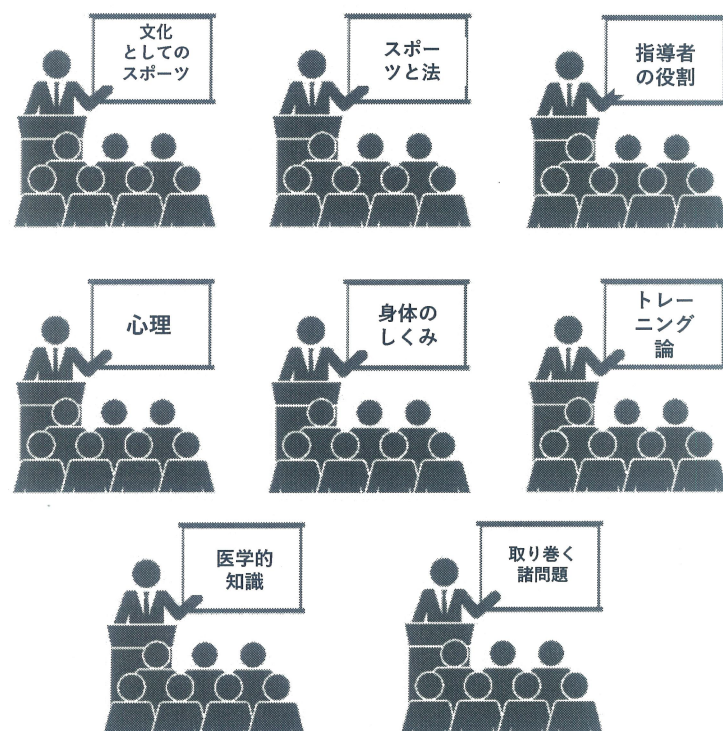
2-2 共通科目講習会実施形態の変更 集合講習

集合講習では分野横断的なテーマを取り扱い アウトプット中心とした学び・振り返りの場とする



<旧> 集合講習

各分野の講師がそれぞれ
テキストに沿って講義



<新> 集合講習

コーチングの分野を中心に
横断的なテーマを設定

<事前学習>
基本知識の修得（特に医・科学的知識）

<集合講習>
知識の修得というよりも、現場での活用を想定した
受講者同士による意見交換等（二律背反によるジレンマトレーニング、ケーススタディ、専門家との連携等）を通じて、自身の考え方・指導方法について
学び・振り返る場とする。

受講者 50名～100名／会場
講師 メイン1名＋1～2名
※受講者数による



2-2 共通科目講習会実施形態の変更 コーチデベロッパー



公益財団法人
日本スポーツ協会

2018年度修了者数

推薦団体 居住県	都道府県体育・ スポーツ協会	中央競技団体	コーチング学会・ 体育学会	計	推薦団体 居住県	都道府県体育・ スポーツ協会	中央競技団体	コーチング学会・ 体育学会	計
1 北海道	0	0	0	0	25 滋賀県	0	0	1	1
2 青森県	0	0	0	0	26 京都府	0	0	1	1
3 岩手県	1	0	0	1	27 大阪府	0	0	1	1
4 宮城県	0	0	0	0	28 兵庫県	0	0	0	0
5 秋田県	0	2	0	2	29 奈良県	0	0	0	0
6 山形県	0	0	0	0	30 和歌山県	1	0	0	1
7 福島県	0	0	0	0	31 鳥取県	0	0	0	0
8 茨城県	0	2	2	4	32 島根県	1	0	0	1
9 栃木県	1	0	0	1	33 岡山県	0	0	1	1
10 群馬県	2	0	0	2	34 広島県	0	1	0	1
11 埼玉県	0	0	0	0	35 山口県	1	0	0	1
12 千葉県	0	1	1	2	36 香川県	1	1	0	2
13 東京都	0	6	3	9	37 徳島県	0	0	0	0
14 神奈川県	0	0	3	3	38 愛媛県	0	0	0	0
15 山梨県	0	0	1	1	39 高知県	0	0	0	0
16 新潟県	1	0	0	1	40 福岡県	0	1	0	1
17 長野県	0	0	0	0	41 佐賀県	1	0	0	1
18 富山県	1	0	0	1	42 長崎県	0	0	0	0
19 石川県	1	0	0	1	43 熊本県	0	0	0	0
20 福井県	0	0	0	0	44 大分県	0	0	0	0
21 静岡県	0	0	0	0	45 宮崎県	0	0	0	0
22 愛知県	0	0	2	2	46 鹿児島県	0	0	1	1
23 三重県	0	0	0	0	47 沖縄県	1	0	0	1
24 岐阜県	0	0	0	0	計	13	14	17	44

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会
共通科目Ⅱ集合講習会
基本日程（3日間版）

Ⅱ

2019/4/15現在

	1日目	2日目	3日目	
9:00		場作り(導入) 【10分】	場作り(導入) 【10分】	9:00
9:30	受付 オリエンテーション	コーチング環境を整えよう	様々なコーチング文脈について 考えてみよう	
10:00	場作り(導入) 【30分】			
10:30	日本スポーツ協会が推進する スポーツとは？ その中で求められる公認スポ ーツ指導者の役割とは？ 【60分】	スポーツ医・科学を 活用しよう	コーチの資質能力を まとめてみよう 【90分】	10:30
11:30	昼食			12:00
12:30		【120分】	昼食	
	コーチングの課題を整理しよう 【60分】	昼食	コーチ自身の幸福について 考えてみよう 【60分】	13:00
13:30				14:00
	プレーヤーズセンタードな コーチングを実践しよう 【120分】	効果的な計画を立ててみよう 【90分】	コーチ自身の成長の計画を 立ててみよう 【60分】	15:00
15:30				15:50
	コーチングにおける倫理的 判断力を高めよう 【60分】	試合でベストパフォーマンスを 出すための準備をしよう 【90分】	コーチング実践 ポートフォリオを まとめよう 【50分】 クロージング 【10分】	16:00
16:30				
	事故の予防と対処法について 考えよう 【90分】	アウトカムが明確な練習作りと 評価をしてみよう 【60分】		17:30
18:00		2日目の振り返り 【30分】		18:00
18:30	1日目の振り返り 【30分】			
	計450分 7時間30分	計480分 8時間	計360分 6時間	
	計1,290分 21時間30分			

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会
共通科目Ⅱ集合講習会
基本日程（4日間版）

Ⅱ

2019/4/15現在

	1日目	2日目	3日目	4日目	
10:00		場作り(導入) 【10分】	場作り(導入) 【10分】	場作り(導入) 【10分】	10:00
10:10	受付 オリエンテーション				10:10
10:30	場作り(導入) 【30分】	コーチングにおける倫理的 判断力を高めよう 【60分】	効果的な計画を 立ててみよう	コーチの資質能力を まとめてみよう	
11:00					
11:10	日本スポーツ協会が推進する スポーツとは？ その中で求められる公認 スポーツ指導者の役割とは？ 【60分】		【90分】	【90分】	11:40
11:40		事故の予防と対処法 について考えよう		コーチ自身の幸福について 考えてみよう 【60分】	
12:00	昼食	【90分】	試合で ベストパフォーマンスを 出すための準備をしよう 【90分】		12:40
12:40				昼食	13:10
13:00	コーチングの課題を 整理しよう 【60分】	昼食			13:40
13:40			昼食	コーチ自身の成長の計画を 立ててみよう 【60分】	14:10
14:00	プレーヤーズセンタードな コーチングを実践しよう 【120分】	コーチング環境を整えよう 【80分】	アウトカムが明確な 練習作りと 評価をしてみよう 【60分】	コーチング実践 ポートフォリオを まとめよう 【50分】	14:40
15:00				クロージング 【10分】	15:30
16:00	1日目の振り返り 【30分】	スポーツ医・科学を 活用しよう 【120分】	様々なコーチング文脈に ついて考えてみよう 【80分】		15:40
16:30			3日目の振り返り 【30分】		16:30
17:00		2日目の振り返り 【30分】			17:00
17:30					
	計300分 5時間	計390分 6時間30分	計360分 6時間	計280分 4時間40分	
	計1,330分 22時間10分				

※4日間通して実施いただくパターンと、例えば土日×2回で実施いただくパターンなど分割開催もご検討いただけます。
※3日間開催の21時間30分よりも40分多いのは、振り返り【30分】と場作り(導入)【10分】が各1回多くなるためです。

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会
共通科目Ⅲ集合講習会
基本日程



2019/4/15現在

	1日目	2日目	3日目	4日目	
9:00		場作り(導入) 【10分】	場作り(導入) 【10分】	場作り(導入) 【10分】	9:00
9:10					9:10
10:00		コーチング環境を整えよう	効果的な計画を立ててみよう	様々なコーチング文脈について考えてみよう	
	受付 オリエンテーション				
10:30		【80分】	【80分】	【80分】	10:30
	場作り (導入) 【30分】				
11:00	日本スポーツ協会が推進する スポーツとは？ その中で求められる公認 スポーツ指導者の役割とは？	人のつながりを最適化しよう	試合でベストパフォーマンスを 出すための準備をしよう	コーチの資質能力を まとめてみよう	
12:00	【60分】	【90分】	【90分】	【90分】	12:00
	昼食	昼食	昼食	昼食	
13:00					13:00
	コーチングの課題を整理しよう		アウトカムが明確な練習作りと 評価をしてみよう	コーチ自身の幸福について 考えてみよう	
14:00	【60分】	対人関係の問題解決法について 考えてみよう		【60分】	14:00
14:30			【90分】	コーチ自身の成長の計画を 立ててみよう	14:30
15:00	プレーヤーズセンタードな コーチングを実践しよう	【120分】	スキル向上に焦点をあてた 練習を組み立ててみよう	【60分】	15:00
				コーチング実践 ポートフォリオを まとめよう	
16:00	【120分】		【90分】	【50分】	15:50
				クロージング 【10分】	
16:00	コーチングにおける 倫理的判断力を高めよう	スポーツ医・科学を活用しよう	コーチングセッションの 運営力を高めよう		16:00
17:30	【90分】	【150分】	【90分】		17:30
18:00	事故の予防と対処法について 考えよう	2日目の振り返り 【30分】	3日目の振り返り 【30分】		18:00
19:00	【90分】				
	1日目の振り返り				
19:30	【30分】				
	計480分 8時間	計480分 8時間	計480分 8時間	計360分 6時間	

計1,800分
30時間

2-2 共通科目講習会実施形態の変更 教材



公益財団法人
日本スポーツ協会

従来の区分別テキストを一冊に集約した「リファレンスブック」を作製する

<旧> テキスト

科目区分によって
学ぶ科目名（項目名）が
異なるため
テキストも分かれている



合計560ページ

<新> リファレンスブック

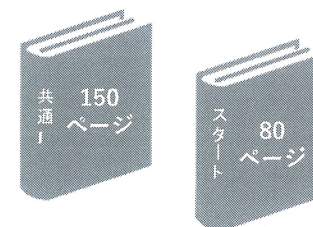
科目の区分に関わらず学ぶ項目名は
共通とするため、
知識を獲得するための
リファレンスブックは1冊に集約
(Full Ver.)



カリキュラム時間数の少ない
「共通I」、「共通スタート」用に
Full Ver.から簡易版を別途作成

内容は
現テキストを踏襲

<簡易版>



※集合講習会後も適宜振り返り、参照してもらえるものを目指し
「テキスト」から「リファレンスブック」に名称を改める

2-2 共通科目講習会実施形態の変更 受講料



公益財団法人

日本スポーツ協会

科目	資格名	現行		改定後		
		税抜	税率8%	税抜	税率8%	税率10%
共通科目Ⅱ	コーチ2	14,000	15,120	16,000	17,280	17,600
	スポーツプログラマー	20,000	21,600	16,000	17,280	17,600
共通科目Ⅲ	コーチ3					
	アスレティックトレーナー	18,000	19,440	20,000	21,600	22,000
	スポーツ栄養士					
	教師	54,000	58,320	56,000	60,480	61,600
共通科目Ⅳ	コーチ4	26,000	28,080	28,000	30,240	30,800
	上級教師	54,000	58,320	56,000	60,480	61,600

※リファレンスブック（テキスト）

受講料と別に、リファレンスブック代として代金を徴収

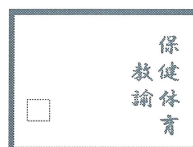
フルバージョン用（共通科目Ⅱ以上） 3,000円（税別）

共通科目Ⅰ用 1,500円（税別）

スタートコーチ用 未定

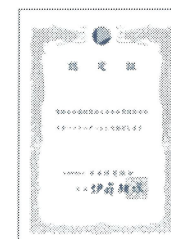
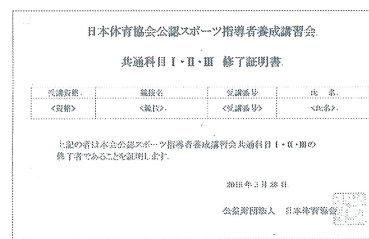
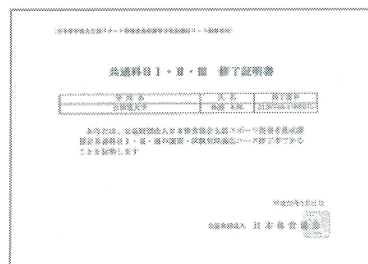
【廃止】

保健体育の教員免許状による集合講習免除



<今後も引き続き免除扱い>

大学等における免除適応コースの修了証明書
他の資格受講時に取得した共通科目修了証明書
スポーツリーダー認定証(共通Ⅰ) ほか



※上位区分の修了証明書を保有の場合、下位区分は免除
【例】 共通Ⅱ修了済み → 共通Ⅰは免除

2-2 共通科目講習会実施形態の変更 未修了者

未修了者(過年度受講者)の対応

～2018年度			2019年度～	
集合講習会	検定試験		講習会	検定試験
部分受講済	—	→	未受講部分の 課題提出	旧カリキュラム
			新カリキュラム ※希望者、免除なし	
未受講	—	→	新カリキュラム	
受講済	未合格	→	—	旧カリキュラム

3. 新資格(スポーツ指導者基礎資格)の創設(2020年度)



公益財団法人
日本スポーツ協会

2019年度以降のスポーツリーダー資格

1. 新規養成：段階的な中止

集合講習会：2019年度以降は養成不可

※2018年度までに開催実績がある団体は2022年度までは養成可能

通信講座（NHK学園）：2019年度秋期まで受講可

※2019年秋期（申込8-10月、受講11-1月、成績4月）

免除適応コース履修中の者：2022年度まで対応予定

公認資格保有者等による申請：2019年度で受付終了予定

2. 認定：

永年認定資格であるため、2019年度以降も認定を継続

3. 新資格(スポーツ指導者基礎資格)の創設(2020年度)



公益財団法人
日本スポーツ協会

新資格(スポーツ指導者基礎資格)

1. 創設：2020年度（予定）

2. 名称：未定（2019年6月上旬決定予定）

3. スポーツリーダーからの移行

希望する者は、原則として2023年度までに新資格へ移行することが可能（手続き方法等の詳細は未定）。

4. スケジュール

年度		2019		2020		2021		2022		2023	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
通信講習	スポーツリーダー	秋期(申込:8-10月、受講:11-1月、成績:4月)まで									
	更新制新資格 (名称検討中)			【案1】春期(申込:2-4月、受講:5-7月、成績:10月)から開始							
				【案2】夏期(申込:5-7月、受講:8-10月、成績:1月)から開始							
				【案3】通年							
集合講習・ 適応コース	スポーツリーダー	2022年度まで※1									
	更新制新資格 (名称検討中)			2020年度から							
移行期間※2 (2020年10月認定～)				(原則として)2023年度まで							

※1 スポーツ少年団認定員養成講習会は2019年度で終了予定。2020年度以降は2018年度までに開催実績を有する団体のみを対象とする。

※2 現行スポーツリーダーが希望により更新制新資格に移行する期間